

## 資料 1

### ○志度幼稚園をこども園に移行するメリット

- 1 津波に対する避難訓練を実施しているということは、その地域が安全ではないということ。

志度保育所を閉園するだけでは、市の役割を果たしたことにはならない。志度地区の就学前施設に通う児童の安全面を第一に考えることが重要である。

- 2 今後、各地域において少子化が進行し、集団での活動が維持できなくなり閉園する施設が増えていくことが予想されているなかで、志度地区のこども園としてではなく、さぬき市全体のこども園として整備することで、今後、公立施設が閉園となった志度地区以外の地域の受け皿となる。

- 3 公立施設の大半は老朽化による大規模な改修工事が必要となっているが、地域によっては改修後に何年間も入所人数を維持することは困難だと思われることから、老朽化している施設を改修して使うより、市内にもう一か所こども園を整備するほうが、集団での活動を維持できるし、維持管理経費も削減できる。

また、幼稚園型のこども園とすれば、給食も外部搬入が可能なため、改修費用は低く抑えられる。

- 4 市民が安心して教育・保育サービスを受けられるよう、民間が撤退したときのこと想定して、0～2歳が入所できる公立施設は残しておくことで、待機児童の対策になる。

- 5 志度エリアの0～2歳児にとって公立施設の受け皿がないのは保育の質と量の両面を保障できない。

- 6 子育て支援の重要施設であるこども園の整備をカットしてしまうと、人口減少に影響し、魅力あるまちづくりに逆行してしまう。